

「日本の知られざる側面を明らかにする、 名刺データの価値」 へのコメント

令和2年7月
経済産業省 商務情報政策局
アーキテクチャ戦略企画室長
和泉憲明

データと分析技術をどう活用し、いかにDXに取り組んでいるのか。

- 製品・サービスのイノベーションについて、データ/データ分析の観点から御社の取り組みをご紹介頂いたところ、「DX推進のための経営のあり方、仕組み」についてお伺いしたい。

✓ 【データとデジタル技術を活用するための取り組み】

単に技術面（データとデジタル技術）に着目するだけでなく、人材採用（体制構築）までコミットできているのではないか。

1. 【事前に想定できない課題への挑戦】

データ分析の成果は、成果が得られるまで経営トップとしての忍耐力が求められるのではないか。特に、DSOCのトップとして、何にコミットしていること理解すればよいか。

2. 【技術革新への継続した取り組み】

先端技術への取り組みを可能にしているポイントは何か。さらに、技術的な恩恵だけでなく、コミュニティ活動からの「見えない」の恩恵を確実に受け取っているのではないか。

3. 【コロナ禍対応における仮説生成】

コロナ禍への対応を可能にしているのは、研究開発部門の強みそのものではないか。